

2021 年度(令和 3 年度) 札幌国際大学 地域・産学連携センター共同研究費
 一般社団法人北海道商工会議所連合会と人材育成に関する産学連携プロジェクト報告書
 -早期の企業訪問による就業・キャリア意識向上についての研究-

統括: 千葉里美(キャリア支援センター長)
 共同: 松浦秀太(大学・副センター長)
 和田早代(短期大学部・副センター長)
 キャリア支援センター職員

1. 研究の背景-本連携協定(6 年間)の研究成果と課題

一般社団法人北海道商工会議所連合会(以下、道商連)と札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部の連携協定は、2015 年(平成 27 年)に締結され、その目的は「北海道における人材育成」であった。表 1 は、連携後の共同研究テーマと事業概要を簡単に整理したものである。最初の 2 年間は本学の学生と社会(企業)の実態環境を把握するための定量調査と、社会人の考えに触れさせ本学学生の就業意識を高めることを目的とした「社会人講座」であった。そして 4 年目より、「地方創生」をテーマに「地方で働く」をテーマとした「社会人講座」に絞った学生プログラムへと進化している様子がうかがえる。その際のプログラム設計としては、経営者の「働く」を本学で一定程度理解させた上でその会社に訪問させる方法であり、報告書からは、経営者からの講話から描く単なる働くイメージからその地域にある経営者の企業に訪問することで、より具体的に個々人の学生の中に地方で働くことが自分ごと化として落とし込んでいる様子がうかがえる。この様に「地方で働く」ことを理解するための効果的プログラム設計に関しては概ね整理できているものの、6 年間の共同研究は年度ごとの研究メンバー教員の研究活動として個別に実施していたため、参加学生が研究教員の所属学部や学科に偏っていたこと、また単年度ごとの研究で研究メンバー教員も変化することから「社会人講座」を受けた学生の意識の定着を検証することができないこと等は、2020 年度報告書にも触れられている課題である。

表 1 連携協定以降の研究活動概要

共同研究テーマ	事業概要
2015 年度 「人材育成に関する産学連携プロジェクト-企業・学生ニーズ調査を中心に-」	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の就業意識実態調査 ・地域の中小企業就業への可能性に関するアンケート ・社会人との接点を増やし就業意欲の醸成の場「社会人講座」(スポーツ人間学部のみ)
2016 年度 「人材育成に関する産学連携プロジェクト-企業・学生の実践的調査を中心に-」	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の企業に向けた採用活動課題や新入社員教育支援内容に関するアンケート調査 ・前年度同様の「社会人講座」
2017 年度 「早期の企業訪問による、就業・キャリア意識向上についての研究」	<ul style="list-style-type: none"> ・短大学生を対象とした「社会人講座」と講座プログラムの内容の検討(例:地方中小企業の若手経営者を招聘+講座招聘企業先の訪問)
2018 年度 「早期の企業訪問による、就業・キャリア意識向上についての研究」	<ul style="list-style-type: none"> ・「地方創生」をテーマに学生(4 大・短大)に訪問企業の選定をさせた「テーマ性を持たせた社会人講座」の実践+最終発表会 ※若手経営者の招聘+企業訪問のプログラム設計は変更なし
2019 年度 「早期の企業訪問による、就業・キャリア意識向上についての研究」	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度同様の「地方創生」をテーマに、道商連が推薦する商工会議所の若手経営者との「社会人講座」(懇談会含む) ※若手経営者の招聘+企業訪問のプログラム設計は変更なし
2020 年度 「早期の企業訪問による、就業・キャリア意識向上についての研究」	<ul style="list-style-type: none"> ・学生と歳が近く活発な取り組みをしている商工会議所青年部との「社会人講座」の実施 ※若手経営者の招聘+企業訪問のプログラム設計は変更なし

2. 本年度事業計画の経緯と目的

道商連との共同研究は、前述した通り 2018 年度より「地方で働く」ことを理解する学生プログラムとなり、2021 年度予算も同様のテーマで計上されていた。こうした中、これまでの共同研究成果を就職支援という形で本学学生に平等に提供する部署として、2021 年度より所管がキャリア支援センターに移管された。そこで引き継がれた研究テーマ「早期の企業訪問による、就業・キャリア意識向上についての研究」を実施するに至り、後述する継続事業①だけでなく新規事業②の実施について道商連と打ち合わせをした。

① 継続事業：「社会人講座」(実施内容一部修正)

→従来の「地方で働く」だけではなく「地方で暮らす」ことも理解させるプログラムに修正。

コロナ感染拡大の影響から、人の往来回数を減らし、現地宿泊による 1 泊 2 日の短期プログラムとしたい。

筆者が所属する観光学部卒業生だけの情報であるが、地方企業を離職する本学卒業生の離職理由として職場環境以外に地方で暮らすことへの理解欠落も多い(札幌での生活ができないことやコミュニティの違いによるカルチャーショック)ことから、仕事時間以外の地域での暮らし方も学びに取り入れたい。

② 新規事業：「地方企業のインターンシップ先開拓+導入希望企業への勉強会開催」

→「地方で働く」と「暮らす」を早期から理解できる場の提供として、インターンシップ先の開拓は本学学生または企業にとっていい学生との出会い創出の場として共に有効である。しかしながら、企業の中には、インターンシップに興味があってもプログラムの作り方や導入方法がわからない場合もあると考えられる。そこで企業向け勉強会開催も打ち合わせで提案させて頂いた。

結果、道商連より新規事業②のニーズがなかったことの報告を受け、以下 2 事業について実施することとなった。

-2021 年度実施事業-

■座談会「経営者トークセッション」

目的: 就業意識の醸成(働くことの意義、やりがい、求める人物像)

対象: 本学 3 年生(約 150 名程度)

運営: キャリア支援センター就職支援プログラム「就職ガイダンス」の一部プログラムとして実施
キャリア支援センター職員中心に運営

■社会人講座「地方で働くx地方で暮らす 早期キャリア講座 in 帯広」

目的: 若手社員参画による地方で働くことと暮らすことの双方向理解

求人票では見えない地方での就職についての総合的な理解

対象: 地方での就職を検討している大学 1.2 年生と短期大学部 1 年生

運営: キャリア支援センター長、大学・短期大学部副センター長、キャリア支援センター職員
大学 1.2 年、短期大学 1 年のキャリア教育科目にて告知

3. 事業報告

(1) 座談会「経営者トークセッション」

- ① 開催日時: 2021年11月9日(火) 16:20-17:50
- ② 開催場所: 本学2号館2階221教室「創風」
 ※当初、教育効果を鑑み対面での実施を予定していたが、当日、悪天候のためZOOMからの参加学生が多くなってしまった
- ③ 内 容: キャリア支援センター前川課長がファシリテーターを務め、登壇している経営者の方々に、働くことの意義、仕事のやりがい、企業が求める人材像などについてのトークセッション
- ④ 登壇者: 札幌近郊の中小企業経営者3人
 クオリ(株) 代表取締役 井村正太郎様
 (株) 三笠生産事務所パートナー保険サービス 代表取締役 越前良太様
 オフィス上森(株) 取締役 上森直樹様

(2) 社会人講座「地方で働く×地方で暮らす 早期キャリア講座 in 帯広」

- ① 開催日・行程: 2021年12月11日(土)～2021年12月12日(日)の1泊2日

表2 社会人講座2日間の行程

1日目(12/11)		2日目(12/12)		
9:00	引率教職員集合(211教室)		各自起床後、ホテル朝食(各自)	
9:15	学生集合(211教室) 自己紹介・概要説明・チームビルディング	9:00	フロント集合・移動	
10:15	移動(車内で昼食済ませる)	9:30	企業様とのグループワーク-ホテルグ ランテラス帯広2F「リーフ」 グループワーク	
14:00	企業訪問①(宮坂建設工業(株))		11:30	学生発表・企業からの感想
14:45	終了・移動	12:00	昼食	
15:00	企業訪問②(ニューパックとがし)	13:15	大学へ移動	
15:45	終了・移動	16:30	大学着	
16:00	企業訪問③(株)e-style)			
16:45	終了・移動			
17:00	コンフォートホテル帯広チェックイン			
17:30	企業視察まとめ・交流会-ホテルヌプカ1F			

※コロナ感染拡大防止のためホテルは学生も教職員もシングルユースとした。

※バスは大型車を利用したが、コロナ対応の徹底により2座席1人での着席を指示されたため、最大人数は20名であった。

- ② 参加学生・引率者: 計17名

学生・・・大学2年13名(内訳:臨床心理2名、観光ビジネス学科7名、国際観光学科4名)

※留学生(ベトナム)2名の参加があった

※短期大学部は、検定試験と重なり参加が叶わなかった

引率者・・・キャリア支援センター長、大学・短期大学部副センター長の3名、

キャリア支援センター職員1名、道商連担当職員1名

③ 参画頂いた企業： 帯広市近郊の 10 社 11 名

表 3 本プログラムに参画頂いた企業と参加者

企業名	参加者 (役職)	業種	1 日目交流会 参画可否	2 日目グループ ワーク参画可否
ホテルグランテラス帯広	松浦 正様(総支配人)	宿泊	○	○
(有) ニューパックとがし	富樫 雅道様(代表取締役)	包装資材卸・小売	○	○
(株) e-style	阿部 勝利様(代表取締役)	情報通信	○	○
アルマージ	加藤 愛子様(代表)	飲食	○	○
大昭電気工業 (株)	山口 良樹様 (取締役営業部長)	電気設備	○	○
宮坂建設工業 (株)	武山 純様(総務部長)	建設	○	○
阿寒湖温泉民宿山口 SORANOMORI CAFÉ 合同会社ノーサム 他	円城寺 篤様※本学 OB (代表、代表、代表社員)	宿泊 飲食 まちづくり	×	○
おやきや TOTTE 合同会社ノーサム 他	尾崎 将寛様※本学 OB (代表、代表社員)	飲食 まちづくり	×	○
北海道ホテル	山口 陽史(総支配人)	宿泊	○	×
SPACE COTAN (株)	干場 康行(テクニカルチーフ) 中神 美佳(マーケットチーフ)	宇宙	○	×

④ プログラムごとの内容

【企業視察】

社内視察後に企業説明を頂戴し、学生の質疑応答から更なる理解を深めた。視察日が土曜日ということもあり、平日までではないが働いている方を数人でも目にすることができた事は、学生にとって良い刺激となった。

また視察中、一緒に回っていただいた社員の方々に随所で学生の積極的な質問が見られた。

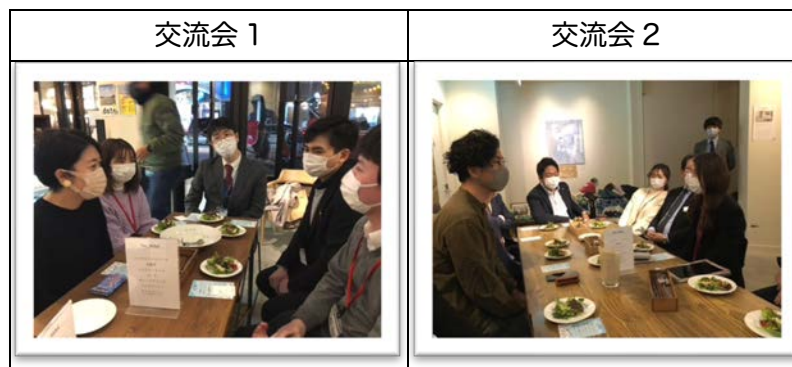
写真 1 企業視察の様子

宮坂建設工業 (株) 視察 1 	宮坂建設工業 (株) 視察 2 	宮坂建設工業 (株) 視察 3 
(有)ニューパックとがし視察 1 	(有)ニューパックとがし視察 1 	(株) e-style 視察 

【交流会】

ホテルヌプカの1階スペースで軽食を用意しながらの様々な業種の社員と、1日目の感想や気づきをテーマにしながら、更なる個々人の「働く」と「暮らす」理解を深めるため交流会を実施した。学生数13名に対し企業からの参画は10名であったことから、企業の方と密な交流となった。

写真2 交流会の様子



【学生と企業とのグループワーク・発表】

2日目は、本講座の最終目的である「地方で働く」と「暮らす」についてグループワークを実施した。このプログラムも1日目交流会と同様、学生数13名に対し8名の企業参画を頂戴した。そのため、学生3-4名で構成する4つのグループに企業の方が2名ずつ入り、グループ内で活発な意見交換ができる環境が整った。グループワークのテーマは「地方で働く」と「暮らす」で、学生今の生活拠点である札幌と比較しワークシートに整理させ議論が見える化できるように教材を作成した。また参加学生が2年生であり、意見集約の技術に個人差があると推測し、進め方は引率教員の方で統制した。具体的には、付箋を活用したブレインストーミングからKJ法で学生意見を整理させたのち、同じテーブルに参画頂いている方へヒアリングを通して更なる整理をしていく流れとした。グループワーク終了後は、チームごとの発表を行い、アウトプットの情報共有と企業の方より講評をいただいた。

写真3 グループワークと成果発表の様子

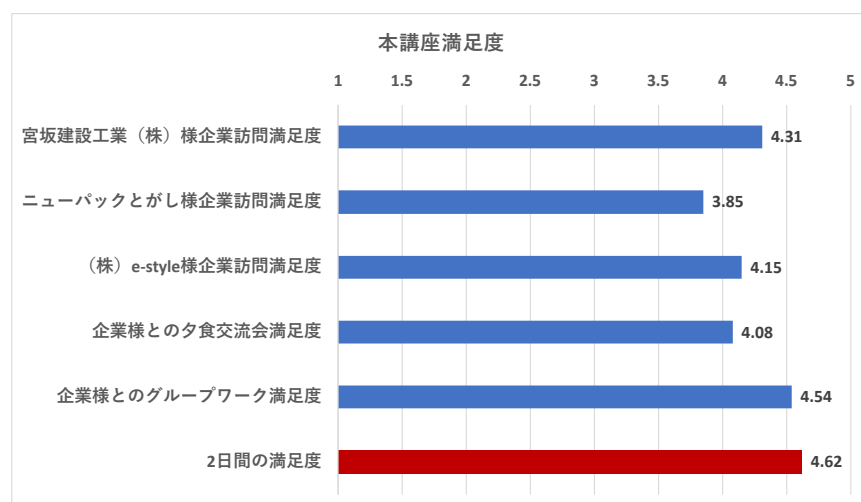


⑤ 本講座の成果と課題

【各プログラムの満足度】

表2の通り進めたプログラム行程ごとの満足度を最低1、最大5で評価してもらった平均点の結果が図1である。1日目の宮坂建設工業(株)、(有)ニューパックとがし、(株)e-styleの企業訪問、企業職員との交流会に関する満足度は概ね4ポイントと満足度が高い傾向にあるが、2日目に実施した企業との意見交換をしながらのグループワークの満足度は4.54と高評価であった。これは、学生の価値観と企業様の価値観をぶつけながらの理解と発表に向けて考えを整理できたことが要因と考えられる。また、本講座2日間の満足度に至っても4.62と高評価であった。

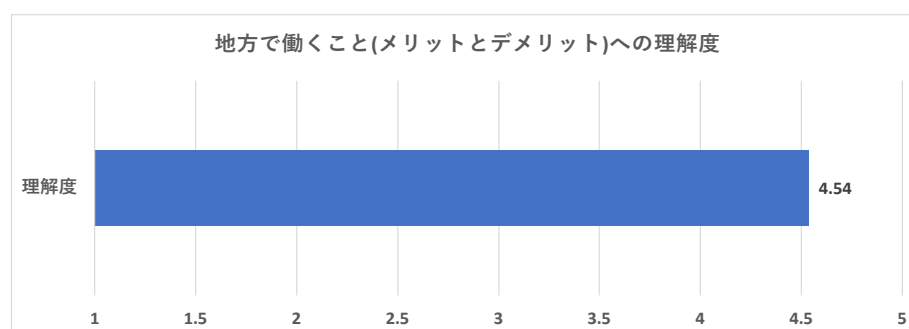
図1 講座の満足度



【地方で働くことへの理解度】

本講座開催の目的である地方で働くことへの理解度(最低1、最大5)は、4.54ポイントと満足度同様に高評価であった。

図2 地方で働くことへの理解



【学生の感想】

表4は、講座終了後に収集した学生13名の感想である。本講座の目的である「地方で働くと暮らす」を札幌と比較したことで理解が深まり効果的なプログラム内容であった様子がうかがえる。

表4 学生の感想

2日間で勉強になったこと(感想含む)
直接企業様とのグループワークを通し、社会で何が必要なのか、どんなお仕事があるのかを知ることができた。
札幌であっても地方であっても、「働く」ことにそれぞれメリットデメリットがあると理解できた。今後は、自分がどこに大事にするか考えることが重要になると感じた。
色々な業種を知ること、働くことが明るく感じる事ができた。そして色々な企業に目を向けてみる事が大事だと思った。
実際に地方に住んでいる方と話し、普段札幌に住んでいても気づくことができないことを沢山知れた。
帯広の地域性、考え方、その土地ならではの習慣、ビジネスモデルなどを学ぶことができた。こういうところまで理解した就職活動をしなければならないと思った。
自分なりにハッキリとした目的を持たずにこの講座に参加してしまったので、企業の方と話す時に話題づくりなど困ってしまいました。帯広ならではの仲間意識であったり働くことのメリットデメリットを知れたので、地方で働くことについての意識を少しではありますが明確にすることができました。食事会では社会のマナーも少しだけ学ぶことができました。
都市と地方での働き方の違いが理解できました。
2日間を通して、どこで働いても働くことは大変なのだと思えました。それより、自分で自分の人生をどの様に幸せにするのかが一番大切だと考えさせられました。
地方で働くか都会で働くかは、仕事のスタイルだけではなく、生活のスタイルもメリットデメリットがあり、自分の性格や価値観が合っているかも重要になるなということが分かりました。
初めての企業訪問経験は、五感を通して職場の雰囲気を知ることができ、企業訪問は大切だと理解した。
これまで地方で働くことは楽しそうに思えませんでした。そうでもないことが理解できました。
地方での暮らし方、働き方、お金の使い方が理解でき、地方で働くことが全体的に理解できた。
地方での働き方では人とのつながりが大事だということ。札幌と地方で働くメリット・デメリットが明確になったこと。普段話さない同級生と話してみても、資格取得や就活について新しい発見があって勉強になった。

【学生から寄せられた改善要望】

表5は、学生から寄せられた次年度に向けた改善要望である。中でも考慮すべき点として取り上げたい内容は、上から3番目のリアルな働くに対する要望である。今年度はコロナ禍での実施のため、大人数の学生を企業の中に入れることは企業側より懸念された点で実現できなかった。しかしながら社内視察をさせて頂く為に、事前のPCR検査と抗原検査の徹底を参加者全員に課した。今後のコロナの状況次第であるが、次年度は、企業視察を平日にできるだけ社員の方々の方が働いている企業の姿を見せられるよう道商連や受け入れ側企業と綿密な打ち合わせをし改善に向けて努力していきたい。

表5 改善要望

今後に向けた改善要望
大学で学んでいる内容と身近な観光系企業の訪問がもっとあったらいいなと感じました。
交流会の時間がもう少し欲しかった。
平日開催にして実際に社員の方が働いている姿を見たい。
交流会やグループワークと特定の人しか話すことができなかったため、席替えなどをして全員と話す時間が欲しかった。

⑥ 道商連からの評価

道商連側の本講座担当者より本講座終了後に意見をいただいた。寄せられた原文をそのまま紹介する。「普段学生と接する機会が少ない企業は、若い学生の価値観を理解する上でこのような事業は大変貴重であり、参加企業より実際に今後もこのような事業を継続してほしいとの声が上がっている。また地方にある中小・小規模事業者でも、魅力的な企業は数多くあり、本事業はそれを知るきっかけとなり地方で働くことも視野に考える大学生が増えることを引き続きサポートしていきたい。」

4. 本事業を振り返って

2021年度は、これまでの道商連との共同研究を概観・継承する形で、2つの事業を実施した。1つは、就職活動が目前に迫る大学3年生を対象にキャリア支援センターが実施している就職支援プログラム「就職ガイダンス」にて、札幌近郊の経営者等に登壇いただき、働くことの意味や楽しさについての考えに触れさせ、就業意識の醸成を促す目的のトークセッションである。しかし昨今の就職活動は企業や就職サイトが実施する3年時の夏季または冬季のインターンシップからスタートする流れが存在していることから、この時期の就業意識の醸成は遅いとの指摘がある。よって次年度は、キャリア教育部と調整し次年度の事業を検討したい。

2つ目は、求人票では見えない地方の働くを理解するため「社会人講座」を実施した。これは継続事業ではあるが、今年度からキャリア支援センター所管となり、センターの就職支援プログラムの1つとして全学部学科に声がけをして実施できたことは、本学学生へ平等にその機会を提供することにつながった。またコロナ対応も含め、これまでの研究成果に地方で暮らす理解を企業の方と一緒にできたことは、学生だけでなく参画頂いた企業の方にとって高い評価であった。こうした講座をもう少し多くの学生に提供できれば、働くエリアから企業を選びたがる本学の学生思考から地方の優良企業に眼を向ける学生が一定程度増えることに繋がり、地域へ優秀な学生を輩出する使命をもつ本学の存在意義にも繋がる事業に発展できると考える。また地方に会員企業を持つ道商連にとっても、優秀な学生との接点をもつ機会を会員企業へ創出することができたり、昨今の学生の思考理解の場を提供することは地方の人材確保に寄与できる取り組みと考えられる。ただし、参加した学生が地方で働くことを選ぶかは学生の自由で、また札幌での生活に溶け込むことにより定着力は弱まることが予想される。そう考えると、社会人講座による学びから、更にインターンシップ経験を通し地方で働くことと暮らすを理解する次のステージを用意するのが優秀な人材を地方で確保する自然の流れであると筆者は捉えている。2021年度の道商連との打ち合わせでは叶わなかったが、再度、地方でのインターンシップ開拓を提案してみたい。

【謝辞】

本事業を進めるにあたり道商連の窓口であった佐々木様には、先方との折衝など多大なる力添えをいただきました。また、「座談会」や「社会人講座」にご参画いただきました各企業の皆様には、コロナ感染拡大が懸念される中、土日の参画にご協力いただき感謝申し上げます。それ以外にも、道商連より就職活動に関する書籍を学生に提供いただくなど様々な心遣いに深謝申し上げます。